

妊婦用文章完成法検査 (SCT-PKS) による妊娠期からの母子関係 (1)

—その概要と統計的分析から—

恒次 欽也 庄司 順一 川井 尚
Kinya TSUNETSUGU Junichi SHOUJI Hisashi KAWAI

(障害児治療教育センター) (都立母子保健院) (東京都精神医学総合研究所)

はじめに

妊娠期からの母親や父親の胎児に対する意識のありかたがその後の母子関係・親子関係の形成にさまざまな影響を与えるのではないかとの主張が近年とみに盛んになされてきている。そして、こうした視点にもとづいた研究もなされてきつつある。われわれは妊婦の胎児や妊娠に対する意識を調べることを目的として妊婦用文章完成法検査を作成し、実施し、これまで報告を重ねてきた。今回はその改訂版(第2版 1983年)を用いた結果の概要を紹介したい。

一般に心理的な問題を抱えた事例にたいして乳児期初期からの心理的発達はどうであったかを本人、または母親から聴取することが多い。これらは当然にも回想的になされる為になかなか正確な情報を得ることが困難である。しかし、こうした面接の過程で乳児期からの、ときには妊娠期からの問題が浮かびあがる場合も少なくなく、妊娠期・乳児期からの発達の様相を知ることが心理臨床の場合に必要なものとなる。それにより事例がどこでどのようにどういった問題をひきおこすようになったかを知ってだてを得ることができるからである。ただこうした retrospective な方法では予防的な精神衛生を考えれば後手後手となってしまふことは明らかである。そのため prospective な研究が要請される。その出発点となるのが妊娠期からの親子関係の形成研究となる。こうした研究を積み重ねることにより予防的だてが考えられることになる。われわれはこの目的に沿ったものとして妊婦用文章完成法検査を開発し妊娠期からの母子関係の研究を開始した。

今回はフェイス・シートの単純集計とフェイス・シートの中から妊娠回数と予め38の質問項目を7領域に分け、そのうちの3領域(領域I母親と胎児との関係、領域Ⅲ父親と子どもとの関係、領域Ⅳ夫婦関係)の各項目との間でクロス集計をして χ^2 検定を行った結果の中から注目されるものの一部を報告したい。この3領域を選択したのは次のような理由による。

領域Iは本検査の最も基本的なもので今回の妊娠と胎児に対してどうであるかを明らかにするためである。領域Ⅲは今回の妊娠を夫がどのように感じているかを妻側からみたもので領域Iと対比されるものである。領域Ⅳは夫婦関係のありかたが領域Iや領域Ⅲの回答に影響を与えている可能性から取り上げることにした。また、フェイス・シートから妊

娠回数を取り上げたのは当然初めての妊娠であるか否かにより上に述べた領域への回答の様相が異なると予想されたからである。

方 法

① 研究の対象者

対象とした妊婦は総数 742名であった。その内訳は都立母子保健院の母親学級 324名、同産科外来 222名、福岡46名、沖縄 146名、その他 4名であった。

② 検査内容と実施方法

妊婦用文章完成法検査 (SCT-PKS) は妊娠期の母子関係を検討する為に川井 尚、庄司順一により作成されたものであり¹⁾、現在標準化に向けて試行中のものである。現行の妊婦に関しての調査は殆どが多肢選択法か自由記述によるもので心理検査というよりもアンケートというニュアンスが濃い。しかし、本検査の場合は文章完成法の形式に則っているので単なる妊婦の意識調査にとどまらず、心理臨床的な問題を抱えた妊婦を捕捉しうるものと考えている。

SCT-PKSの構成は38の質問項目と23のフェイス・シートから成り立っている(末尾の付録を参照)。また38の質問項目は下記に述べるようにその質問の狙いによって予め7つの領域に分けられている。

領域Ⅰ母親と胎児との関係6項目 (I 2 : はじめて妊娠に気づいたとき私は、I 4 : おなかが大きくなってくると、I 6 : 出産、I 12 : 妊娠して私のかわったことは、I 17 : おなかの赤ちゃんが動くこと、I 30 : 私はおなかの赤ちゃんに対して)、領域Ⅱ母親と子どもとの関係4項目 (I 11 : 私は子どもと、I 13 : 子どもを育てることは、I 25 : 私の子どもはきっと、I 34 : 子どもが泣きやまないこと)、領域Ⅲ父親と子どもとの関係3項目 (I 10 : 赤ちゃんが生まれるとき夫は、I 23 : 夫はおなかの赤ちゃんに対して、I 36 : 夫と子どもは)、領域Ⅳ夫婦関係3項目 (I 5 : 夫と私は、I 18 : 夫に対して私は、I 27 : 私が妊娠して夫の変わったことは)、領域Ⅴ女性性(母性)6項目 (I 8 : もし私が男だったら、I 19 : 私は女として、I 22 : 乳房、I 28 : 私のからだは、I 33 : 性、I 35 : 私は母親として)、領域Ⅵ母親自身のこと7項目 (I 1 : 私は子どものころ、I 14 : 私が泣きたくなるのは、I 16 : 心配なことは、I 21 : 私は将来、I 24 : 困りはてた時私は、I 31 : 仕事、I 37 : 親友は)、領域Ⅶ母親の家族(親子)関係9項目 (I 3 : 私は母と、I 7 : 母に甘えたこと、I 9 : 私ときょうだいは、I 15 : 父は、I 20 : 父と母は、I 26 : 私は父と、I 29 : 父に甘えたこと、I 32 : 母は、I 38 : 夫の親と私は)である。

回答者は通常の精研式SCTと同様に途中まで記述された文章の後を続けて記入し、最後にフェイス・シートに関わる質問に回答するように求められた。

② 資料の整理方法

得られた資料ははじめに各質問項目ごとに主要な反応をとりだして原意を損なわないようにしてまとめ、回答のカテゴリとした。その次にこのカテゴリにもとづいて回答者の各反応をコーディングした。このコーディングした資料を分析の対象とした。

なお、カテゴリのうちの Rej. (回答拒否) とはある項目に対して未回答であった際に、

Fail（回答失敗）とはある項目から最後の項目まで未回答であったときにそれぞれの項目に対してコーディングした。また特異反応とは心理臨床の上で注目されるような異様な回答にコーディングした。たとえば、I 2「はじめて妊娠に気づいたとき私は」に「主人にいいだせなかった」とかI 10「赤ちゃんが生まれるときいて夫は」に「ほんとうにうれしいのだろうか」といった回答である。さらにその他とはコーディング・カテゴリとしてはまとめられないような少数の回答に対してコーディングされた。

結果と考察

① フェイス・シートについて

フェイス・シートは付録で示したような質問項目からなっているが、それをコーディングしたものの結果が資料1である。この資料から今回の調査で対象となった妊婦のプロフィールをまとめると以下のようである。

検査実施時の妊娠期は中期以降が大多数で、年齢25歳から29歳、核家族、学歴は高卒ないしは短大・専門学校卒、仕事はしていない、結婚年数4年未満、妊娠は今回が1回目、子どもはいなくて、殆どきょうだいがいる。夫に関しては年齢25歳以上、学歴は大卒が大半で、仕事を持っているといった特徴が読みとれる。また、妊婦の家族では父親は年齢50歳から60歳ぐらいで、7割弱が仕事を持っている。母親の場合は年齢50歳代が中心で仕事は妊婦よりも持っている割合が高い。

しかし、このフェイス・シートの中でとくに注目されるのは流産である。妊婦の25.5%おおよそ4人に1人が流産の経験をしていることである。しかも、人工流産は自然流産と両方の経験があるものを加えると14.2%にも達する。こうした体験を持った妊婦が今回の妊娠や胎児に対してどのような意識、感情を抱いているかは注目に値する。今後分析を試みたい。

さらに、子どもの有無や結婚年数の長短、妊婦の年齢、妊娠期、仕事の有無などがSCT-PKSの回答に相違をもたらす可能性があり今後検討したい。

また、今回のフェイス・シートでは初産か経産かがあいまいになっているので質問の仕方を替える必要が認められた。

② SCT-PKSの単純集計と妊娠回数とのクロス集計について

各カテゴリへの回答の出現率を示したのが資料2である。表の全体という欄が単純集計である。また、1回、2回、3回というのが妊娠回数ごとの回答出現率である。この資料に基づいて領域ごとにその結果を述べたい。

I. 領域I 母親と胎児との関係

I 2「はじめて妊娠に気づいたとき私は」では、うれしい(44.3%)、嬉しいが心配(12.8%)が多い。I 4「おなかが大きくなってくると」、家事が辛い(31.2%) 母となる自覚・実感を持つ(16.5%)、赤ちゃんの存在感を抱く(13.8%)などの回答が多い。I 6「出産」では不安(26.6%)、不安だが頑張る(13.2%)、その他(11.0%)、女性としての喜び(11.7%)が、I 12「妊娠して私のかわったことは」では性格が安定した(18.2%)、食事・動作を摂生する(14.2%)、母親を実感(13.8%)、性格のnegativeな変化(10.8%)などが目立っている。I 17「おなかの赤ちゃんが動くと」では元気だと思う(32.8%)、

資料1. SCT-PKSフェイス・シート

FS 1. 検査実施地域		2. 1～4年未満	43.6%	2. なし	3.8%	FS 19. 母の年齢	
1. 産科外来	30.0%	3. 4～10年未満	21.9%	3. 不明	1.6%	1. 40歳代	15.7%
2. 母親学級	43.6%	4. 10年以上	1.2%			2. 50歳代	53.4%
3. 沖縄	19.7%	5. 不明	3.4%	FS 14. きょうだい		3. 60歳代	23.2%
4. 福岡	6.2%			1. 男のきょうだい	27.9%	4. 死亡	4.7%
5. その他	0.5%	FS 8. 妊娠回数		2. 女のきょうだい	25.8%	5. 不明	3.0%
		1. 1回	54.3%	3. 男女両方	40.8%		
FS 2. 妊娠週齢		2. 2回	23.8%	4. なし	3.8%	FS 20. 母の仕事	
1. 前期	4.2%	3. 3回以上	20.5%	5. 不明	1.8%	1. あり	35.6%
2. 中期	53.1%	4. 不明	1.5%			2. なし	54.3%
3. 後期	40.3%			FS 15. 父の年齢		3. 死亡	5.7%
4. 不明	2.4%	FS 9. 子どもの人数		1. 40歳代	5.4%	4. 不明	4.4%
		1. なし	71.7%	2. 50歳代	42.5%		
FS 3. 年齢		2. 1人	17.3%	3. 60歳代	34.1%	FS 21. 母の生死	
1. 20歳未満	1.1%	3. 2人	8.8%	4. 死亡	14.0%	1. 生存している	93.1%
2. 20～24歳	22.8%	4. 3人以上	1.9%	5. 不明	3.9%	2. 6歳以下時死亡	0.8%
3. 25～29歳	52.1%	5. 不明	0.4%			3. 7～12歳 "	0.7%
4. 30歳以上	22.8%			FS 16. 父の仕事		4. 13～18歳 "	1.2%
5. 不明	1.2%	FS 10. 夫の年齢		1. あり	68.8%	5. 19歳以上 "	2.3%
		1. 20歳未満	0.9%	2. なし	10.8%	6. 不明	1.9%
FS 4. 家族形態(核家族か否か)		2. 20～24歳	8.2%	3. 死亡	14.7%		
1. 核家族	78.8%	3. 25～29歳	39.5%	4. 不明	5.7%	FS 22. 母の生別	
2. 非核家族	20.1%	4. 30歳以上	49.7%			1. 生別していない	93.5%
3. 不明	1.1%	5. 不明	1.6%	FS 17. 父の生死		2. 6歳以下時生別	0.0%
				1. 生存している	83.0%	3. 7～12歳 "	0.0%
FS 5. 学歴		FS 11. 夫の学歴		2. 6歳以下時死亡	1.9%	4. 13～18歳 "	0.0%
1. 中学校卒	6.6%	1. 中学校卒	6.5%	3. 7～12歳 "	1.5%	5. 19歳以上 "	0.0%
2. 高校卒	34.1%	2. 高校卒	28.9%	4. 13～18歳 "	3.5%	6. 死亡	4.2%
3. 短大・専門学校卒	36.6%	3. 短大・専門学校卒	10.4%	5. 19歳以上 "	6.9%	7. 不明	2.3%
4. 大学卒以上	21.6%	4. 大学卒以上	52.2%	6. 不明	3.2%		
5. 不明	1.1%	5. 不明	2.0%			FS 23. 流産の有無	
				FS 18. 父の生別		1. 自然流産	11.3%
FS 6. 仕事		FS 12. 夫の仕事		1. 生別していない	86.4%	2. 人工流産	12.0%
1. あり	29.5%	1. あり	93.8%	2. 6歳以下時生別	0.5%	3. 両方	2.2%
2. なし	68.1%	2. なし	0.6%	3. 7～12歳 "	0.1%	4. なし	71.9%
3. 不明	2.4%	3. 不明	5.7%	4. 13～18歳 "	0.3%	5. 不明	2.6%
				5. 19歳以上 "	3.2%		
FS 7. 結婚年数		FS 13. 夫のきょうだい		6. 死亡	9.4%		
1. 1年未満	30.0%	1. あり	94.6%	7. 不明	3.2%		

資料2. SCT-PKSの3つの領域の単純集計(%)と妊娠回数とのクロス集計(各項目のP値は χ^2 検定の結果)

領域1 母親と胎児との関係	1 回	2 回	3 回	全 体
Item 2. はじめて妊娠に気づいたとき私は (領1) P<28.93%				
① Rej.	0.5	0.6	3.9	1.2
② Fail				
③ 特異	1.0	2.8	3.3	1.9
④ その他	7.7	8.5	9.9	8.4
⑤ うれしい 喜ぶ 夫に知らせた	44.0	46.6	40.8	44.3
⑥ とまどい 信じられない 意外	9.7	7.4	9.9	9.0
⑦ 漠然とした気分 複雑	4.2	3.4	0.7	3.2
⑧ 身体に関して述べる	0.7	1.1	1.3	0.9
⑨ 女性性(母性)に関して述べる	0.5	1.1	1.3	0.8
⑩ 驚いた	6.0	2.8	7.2	5.4
⑪ 不思議	2.5	0.6	0.0	1.5
⑫ うれしいが不安(両義的)	13.2	13.1	11.8	12.8
⑬ 不安 心配	6.5	8.5	7.2	7.3
⑭ やはり とうとう	3.5	3.4	2.6	3.2
Item 4. おなかが大きくなってくると (領1) P<0.01%				
① Rej.	0.5	3.4	7.9	3.0
② Fail				
③ 特異	2.0	0.6	2.0	1.6
④ その他	5.2	5.1	6.6	5.5
⑤ 嬉しい 幸せ 誇る	9.0	8.5	5.3	8.0
⑥ 恥ずかしい	3.2	3.4	4.6	3.5
⑦ 体がおっくう 家事が辛い	27.6	34.7	38.2	31.2
⑧ 嬉しいが恥ずかしい, 不安	5.7	4.5	7.2	5.8
⑨ みっともない 見苦しい	1.5	2.8	0.7	1.6
⑩ 赤ちゃんの存在感 早く生まれて	16.9	8.0	11.8	13.8
⑪ 安心 平和な気分	1.2	4.0	0.7	2.0
⑫ 出産への不安	2.7	4.0	3.3	3.1
⑬ 不思議	3.7	1.7	0.0	2.6
⑭ (母となる) 自覚 実感	19.4	17.0	8.6	16.5
⑮ 体が太る 服がきれない	1.2	2.3	3.3	1.9
Item 6. 出産(領1) P<0.75%				
① Rej.	1.2	2.3	7.2	2.8
② Fail				
③ 特異	0.7	0.0	0.7	0.5
④ その他	12.2	14.2	9.9	12.0
⑤ 不安 心配 怖い	29.1	23.3	24.3	26.6
⑥ 不安+頑張る, うれしい	12.2	15.3	14.5	13.2
⑦ 楽しみ 素晴らしい	6.5	5.7	11.2	7.2
⑧ 女性の一大事業 喜び	12.2	13.1	8.6	11.7
⑨ 大変	5.7	6.8	7.2	6.6
⑩ 五体満足で 軽い出産で	5.5	6.3	3.9	5.4
⑪ 未知 神秘	2.2	1.7	0.7	1.8
⑫ 出産準備, 予定について	4.0	5.1	0.0	3.4
⑬ 早く生まれてほしい	3.2	1.7	2.0	2.6

	1 回	2 回	3 回	全 体
⑭ 頑張る	3.0	1.1	2.0	2.4
⑮ 予定日 出産回数	2.0	3.4	7.9	3.6
Item12. 妊娠して私のか変わったことは (領1) P<4.01%				
① Rej.	1.7	4.5	10.5	4.5
② Fail	0.0	0.0	0.7	0.1
③ 特異	0.2	0.6	0.7	0.4
④ その他	11.5	11.9	8.6	10.8
⑤ 性格の変化(-)(不安定, おこりっぽい)	12.0	10.8	15.1	12.4
⑥ ない	12.0	14.2	19.1	13.8
⑦ 母性の自覚 母親の実感	6.7	5.7	5.3	6.1
⑧ 女性として一人前 女性性	1.0	1.7	0.7	1.1
⑨ 周囲の他児への関心	6.7	2.3	0.7	4.5
⑩ 胎児への関心	1.2	1.1	0.7	1.1
⑪ 食事, 動作を摂生	14.7	16.5	9.9	14.2
⑫ 動作, 行動範囲の変化	8.0	6.8	4.6	7.0
⑬ 体の変化	5.7	4.0	5.3	5.1
⑭ 性格の変化(+)(安定)	17.7	19.3	17.8	18.2
⑮ 性格の変化(+)(-)と(-)	0.7	0.6	0.7	0.7
Item17. おなかの赤ちゃんが動くこと (領1) P<0.01%				
① Rej.	1.2	2.3	6.6	2.7
② Fail	0.0	0.6	0.7	0.4
③ 特異	1.5	0.0	2.0	1.2
④ その他	5.5	7.4	7.2	6.3
⑤ 元気だ 生きている実感	31.3	34.7	34.2	32.8
⑥ 嬉しい 楽になる	19.2	19.3	19.1	18.9
⑦ 不思議 変な感じ	6.5	6.8	3.9	6.2
⑧ 母親としての実感	8.0	5.7	4.6	6.7
⑨ 安心	9.5	9.7	9.2	9.3
⑩ まだわからない	5.5	1.1	0.0	3.2
⑪ 話しかける	6.2	1.1	5.3	4.9
⑫ 触る 手で触れる	1.5	1.7	2.6	1.8
⑬ 話しかけて触る	1.5	2.3	0.7	1.5
⑭ 痛い わずがゆい どきどき	2.7	7.4	3.9	4.0
Item30. 私はおなかの赤ちゃんに対して (領1) P<0.02%				
① Rej.	3.0	1.1	11.2	4.3
② Fail	0.2	1.1	2.6	1.1
③ 特異	1.7	1.1	4.6	2.2
④ その他	7.2	6.3	5.9	6.6
⑤ 健康でいて 五体満足で 無事に	30.6	38.6	37.5	34.0
⑥ 愛情感じる 楽しい いたい やさしい いたわりの気持ち	11.7	10.2	7.2	10.4
⑦ よく話しかける	11.9	10.2	5.3	10.1
⑧ 不安と期待	1.2	2.3	0.7	1.3
⑨ 実感がなない	2.5	1.7	1.3	2.3
⑩ よい母親に やさしい, 強い, しっかりし	5.5	5.7	5.3	5.4

	1 回	2 回	3 回	全 体
た母親に				
⑪ 早く生まれて欲しい (期待)	4.0	5.1	1.3	3.8
⑫ 実感がでてきた	0.2	0.0	2.0	0.5
⑬ いい子に育つように 大事に育てる	4.7	4.5	2.0	4.0
⑭ 責任・義務がある	3.7	5.1	3.9	4.0
⑮ できる限りのことをする	2.5	2.3	0.7	2.0
⑯ おなかの赤ちゃんにすまない 思いやりが足りない	4.7	1.7	2.0	3.4
⑰ 期待	2.0	2.3	2.6	2.2
⑱ 男(女)の子	2.5	0.6	3.9	2.3
領域Ⅲ 父親と子どもとの関係				
Item10. 赤ちゃんが生まれると聞いて夫は (傾3) P<0.12%				
① Re j.	0.2	0.0	2.6	0.7
② Fa il				
③ 特異	1.7	2.3	2.6	2.0
④ その他	3.2	5.1	11.2	5.3
⑤ 手伝ってくれる 協力的	2.5	2.8	3.3	2.7
⑥ 喜んだ 楽しみに思っている	70.4	69.9	57.2	67.9
⑦ 驚き とまどい 複雑 がっかり	5.2	3.4	2.6	4.2
⑧ 内心喜んでいる	3.2	2.8	3.3	3.1
⑨ 喜び+驚き, 不安, とまどい	5.5	3.4	2.6	4.3
⑩ 淡々としてる 当然 ふーん	1.2	5.1	4.6	3.0
⑪ 信じられない 実感わかない	3.2	2.3	0.7	2.4
⑫ 男(女)がいい, 生んでほしい	3.5	2.8	9.2	4.5
Item23. 夫はおなかの赤ちゃんに対して (傾3) P<0.01%				
① Re j.	2.0	1.7	10.5	3.6
② Fa il	0.0	0.6	2.0	0.7
③ 特異	1.2	1.1	1.3	1.2
④ その他	4.5	3.4	3.9	4.2
⑤ 実感ない 関心ない 無頓着	8.7	16.5	25.0	13.9
⑦ 不思議 神秘	1.5	1.1	0.7	1.2
⑧ 父の自覚 責任感	2.2	0.0	0.0	1.2
⑨ やさしい 愛情を持つ 大事にいたわる	16.2	16.5	10.5	15.1
⑩ 男(女)だとい	9.2	10.2	14.5	10.5
⑪ 早く生まれてほしい (期待)	6.5	6.3	2.6	5.8
⑫ 話しかける	14.4	8.0	2.0	10.1
⑬ 触る 撫でる	3.0	1.1	0.7	2.0
⑭ 楽しみ 期待 喜び 親しみ	12.9	9.7	9.9	11.3
⑮ 関心がある 興味を持つ	7.2	7.4	3.9	6.5
⑯ 不安 心配	1.2	3.4	2.0	2.2
⑰ 五体満足にと願っている	2.5	2.8	3.3	2.7
Item36. 夫と子どもは (傾3) P<0.01%				
① Re j.	7.2	2.3	9.2	6.5
② Fa il	1.0	3.4	6.6	3.1
③ 特異	0.7	1.1	2.6	1.2
④ その他	11.2	13.6	13.2	12.0

	1 回	2 回	3 回	全 体
⑤ 仲がよい 遊ぶ (子どもがいる場合)	6.2	29.0	37.5	18.4
⑥ 仲よくしてほしい 遊んでほしい仲よくなくなるだろう	45.3	17.6	7.9	30.8
⑦ 友達 きょうだいのように	3.7	8.0	3.3	4.6
⑧ 私の宝 支え かけがえない	18.4	15.9	11.8	16.3
⑨ 健康 元気であってほしい	2.2	0.6	2.0	1.8
⑩ どうなるかわからない	3.5	3.4	1.3	3.0
⑪ 接することが少ない	0.5	5.1	4.6	2.4
領域Ⅳ 夫婦関係				
Item 5. 夫と私は (傾4) P<0.01%				
① Re j.	2.2	6.8	12.6	5.5
② Fa il				
③ 特異	1.5	2.8	7.9	3.1
④ その他	16.7	14.8	15.2	16.0
⑤ 仲がよい 愛し合う 幸せ	45.9	46.0	33.8	43.3
⑥ 友達 きょうだいのよう	7.5	6.8	6.6	7.4
⑦ 似たもの同士	3.0	8.5	3.3	4.3
⑧ 出産を楽しみ 子そだてを話す	12.0	4.5	7.9	9.2
⑨ 家庭作りの希望	0.5	1.7	0.7	0.9
⑩ 結婚年数 歳の差	10.0	6.8	9.9	9.1
⑪ ふつう	0.7	1.1	2.0	1.1
Item18. 夫に対して私は (傾4) P<0.01%				
① Re j.	1.7	4.5	12.5	4.9
② Fa il	0.0	0.6	1.3	0.5
③ 特異	1.7	3.4	5.3	2.8
④ その他	13.7	12.5	9.9	12.4
⑤ 甘えている 頼っている 信頼	17.9	22.2	13.8	18.2
⑥ 我が儘をいう	7.5	6.8	5.3	7.0
⑦ いい (思いやる, 優しい) 妻	10.0	11.4	7.9	9.7
⑧ よくない妻 優しくない	6.5	11.9	17.8	10.0
⑨ 妻としてかかっていたい (理想像)	19.2	9.7	7.9	14.5
⑩ 夫への愛情欲求	1.0	0.6	0.7	0.8
⑪ 夫への要求 ~となつてほしい	6.2	7.4	8.6	7.0
⑫ 夫への感情 (やさしい NEGATIVEは特異へ)	14.7	9.1	9.2	12.0
Item27. 私が妊娠して夫の変ったことは (傾4) P<0.01%				
① Re j.	1.5	0.6	5.9	2.3
② Fa il	0.0	1.1	2.0	0.8
③ 特異	0.2	1.7	2.6	1.1
④ その他	5.5	4.0	7.9	5.7
⑤ いたわる 優しくなった 手伝ってくれる	50.1	39.8	36.8	44.6
⑥ 特にな	18.7	27.8	31.6	23.6
⑦ 身体を気遣ってくれる	18.0	17.0	3.3	14.6
⑧ しっかりしてきた 責任感 自覚	4.5	5.1	9.2	5.7
⑨ 子どもに興味を持つ	1.5	2.8	0.7	1.6

嬉しい (18.9%) が, I 30「私はおなかの赤ちゃんに対して」では健康でいてほしい (34.0%), 愛情を感じる (10.4%), よく話しかける (10.1%) などが多い。

上記をまとめると妊娠を知った時には喜びを感じるが, おなかが大きくなってきたことには苦痛を感じる。また, 胎児の存在感や母親としての実感を抱くようになる。さらに, おなかの胎児には健康を願い, 愛情も抱いているし, 胎動には胎児の健康を確信することができ, 喜びも感じる。出産にはやはり多くが不安を持っているが女性としての喜びを感じる妊婦も少なくない。このようにおおよそ妊婦は妊娠に喜びや母親としての実感などを抱いたりするが, 他方では出産や胎児の状態に対しては不安感を持ったり健康を願いながら妊娠期を経過していつているものと思われる。

つぎに領域Ⅰの各項目とフェイス・シートの妊娠回数とのクロス集計をし, χ^2 検定を行って統計的に有意でなかった I 2 を除いた結果をみていきたい。

I 4「おなかが大きくなってくると」では妊娠回数が増えるに従って家事や身体の辛さが訴えられることが多くなる。また絶対数では回数に関わらず「家事が辛い」が多いけれども反対に回数の減るに従って赤ちゃんの存在感や母性を自覚する妊婦が多くなる傾向が認められた。

I 6「出産」では回数の増加に伴って不安や出産の喜びが減少し, 出産予定日・回数といった反応が増えて相対的に不安が低下する傾向を読み取れる。1・2回目では不安や女性としての喜びといった回答が多い傾向がある。

I 12「妊娠して私のかわったことは」では3回目の妊娠では他児に対する関心や食事・動作の摂生が低くなっている。

I 17「おなかの赤ちゃんが動く」とに関しては妊娠2回目の妊婦は痛い, むずがゆいなどの身体症状を訴えるものが多いという独特の傾向を示している。2回目の妊娠がなんらかの相違を持っていることを示しているが何に起因するかはよく分からない。1回目の妊婦に母親としての実感が多く, 1・2回目では不思議・変な感じという回答が比較的多いがそれぞれの経験の少なさからくものと了解される。

I 30「私はおなかの赤ちゃんに対して」では1・2回目では愛情を感じ, よく話しかける傾向が認められる。

以上の結果から3回目の妊婦はそれまでの経験などから妊娠そのものにあまり感動することがないせいか妊娠や胎児に対する期待・希望・思い入れなどが比較的少なく, むしろ妊娠によって生じる現実的な問題への対応に関心が集中するものと考えられる。つまり妊娠をあまり特別な状態と考えずに比較的にリラックスした気分で妊娠期を過ごしていると考えられる。反対に1・2回目の妊婦は不安が強いことからく摂生が目立つ胎児に対する期待や思い入れも大きいようである。

さらに妊娠3回目は上に述べたように精神的に安定しているものが多い反面, *Rej.*, *Fail*, 特異反応やその他が1・2回目に比べて多い傾向が認められた。 *Rej.* や *Fail*, は妊娠そのものが新奇性を喪失した結果, 本検査の質問項目に回答する動機づけが低くなったからとも考えられる。また, 特異反応の多さは妊娠回数と結婚年数との間に高い連関が認められるので (連関係数 0.600), 長い結婚生活が家庭内に多くのストレス状況を生み出してきたその結果が影響を及ぼしているのではないかと考えられる。

Ⅱ. 領域Ⅲ 父親と子どもとの関係

はじめに単純集計の結果からみていきたい。

I 10「赤ちゃんが生まれるときいて夫は」では、喜んだ(67.9%)が圧倒的に多い。I 23「夫はおなかの赤ちゃんに対して」では、やさしい(15.1%)、実感がない(13.9%)、楽しみ(11.3%)、男(または女)だといい(10.5%)、話しかける(10.1%)という回答が多かった。I 36「夫と子どもは」では仲よくしてほしい(30.8%)、仲がよい(18.4%)私の宝(16.3%)、その他(12.0%)といった回答が目立った。これは次のように要約される。妻の妊娠を知ったときの夫の態度は喜びに包まれるが胎児に対しては優しい気持ちや期待感を持つ一方では実感が伴っていない。また、子どもとの関係では子どものいない夫婦では仲よくすることを期待していることが分かる。この結果は妻の方からみた夫の態度であるので夫が本当にそう思っているかどうかは不明である。しかし、妊婦側の妊娠に気づいたときや胎児に対しての気持ちのもちようと比較すると夫側は反応が単純であり妻ほど複雑ではない。これが妻側からみたためなのか夫自身もそうであるか否かについては今後の検討を要する。

つぎにクロス集計の結果を述べたい。

まず、I 10「赤ちゃんが生まれると聞いて夫は」ではいずれの場合でも喜んだが多いけれども回数が増えるに従って減少する。逆に男(あるいは女)がいいといった次の子どもの性に関心が高くなっている様子が見られる。また、驚きやとまどいといったことは少なくなってきた。

I 23「夫はおなかの赤ちゃんに対して」は、回数が増えるのに伴って実感のなさや関心のなさ、男(または女)がいいが多くなる。逆にいたりや話しかけや期待などが低下していく傾向が認められた。これも妊娠回数が増えることによって妻の妊娠にたいしての新奇性が低下してきたことのアラわれとらえることができよう。

I 36「夫と子どもは」では、当然のことながら1回目の場合に圧倒的に仲良くしてほしいという期待が多く、すでに子どもがいると考えられる2・3回目には仲が良いという回答が多く得られている。

この領域では回を経るに従って夫側の胎児や妊娠への関心が低下していくことを示している。

また領域I同様にRej., Fail, 特異反応, その他が妊娠3回目に多い。この領域でのRej.の多さは夫側が妻の妊娠にさほど関心がない為に妻の側で回答のしようがないことのアラわれ, または妻側が夫の態度に関心が薄いためかもしれない。また, 妊娠回数と夫婦関係との間になんらかの関係があることを示唆しているように思われる。

Ⅲ. 領域Ⅳ 夫婦関係

I 5「夫と私は」では仲が良い(43.3%)、その他(16.0%)が多い。I 18「夫に対して私は」では、甘えている(18.2%)、妻として～ありたい(14.5%)、その他(12.4%)、優しい(12.0%)、よくない妻(10.0%)が目立っている。I 27「私が妊娠して夫のかわったことは」では、いたわる(44.6%)が断然に多く、ついで特にない(23.6%)、身体を氣遣ってくれる(14.6%)と続いている。

妻からみて夫婦は仲が良く、夫に対しては甘えているし、妻としては未熟という気持ちや良くない妻という気持ちも多い。また、今回の妊娠が夫に与えた変化では心身ともに氣遣ってくれるか変化なしと要約される。

妊娠回数とのクロス集計では以下のようなものである。

I 5「夫と私は」では妊娠回数が多くなるにつれて仲が良いが減り、特異反応や Rej.が増加する傾向が認められる。それと共に2回目が1・3回目とやや異なった傾向を示している。似たもの同士が多く、出産を楽しみにとか結婚年数といった回答が少なくなっている。

I 18「夫に対して私は」では回数が増加するに従ってその他、良い妻、優しいが減少し、逆に良くない妻や、夫への要求が増える傾向がみられた。

I 27「私が妊娠して夫のかわったことは」では回数の増えるのに比例して特になしやしっかりしてきたが増える。逆に、いたわる、身体を気遣ってくれるが減少してきている。

以上から回数の増加に伴い、特異反応や Rej.が増え、また negative な評価が増加する傾向が現れた。これも先に述べたように結婚年数が長くなるに従って生じる家庭内の軋轢のあらわれではないだろうか。

ま と め

妊娠期からの母子関係を探ることを目的として、妊婦用文章完成法検査（SCT-PKS）を作成して、妊婦 742 名に実施した。今回は検査の紹介と単純集計ならびに妊娠回数と3つの領域とのクロス集計した結果の一部を報告した。

1. 単純集計の結果からは各領域ともに胎児への期待感や妊娠の喜び、出産への不安、夫婦間の強い信頼関係などがうかがわれた。
 2. しかし、これを妊娠回数との関係で見直すとまた違った様相が窺われた。
 3. この様相は、妊娠経験の乏しい妊婦ほど妊娠、胎児への期待感や感動が強く、また出産に対する不安も強い。さらに、夫婦間が良い関係が保たれている。
 4. これが妊娠経験が豊富になるにつれて妊娠・胎児への感動や期待感は薄れ、現実的となり精神的に安定した回答が多くなる。
 5. しかし、他方ではこの経験豊富な妊婦達は Rej., Fail, 特異反応, negative な評価が多くなる傾向を有している。その意味で回数が積み重なることにより安定する妊婦と特異な反応を示すものとの2分されてくると考えられる。
 6. これの原因としては結婚期間が長くなっていくことによりさまざまな家庭内の問題が生じてきたことのあらわれではないかと考えられる。
- 以上の結果及び考察から下記の課題が残されることとなった。

今後の課題

- 1) 特異反応の出現比が妊娠回数により随分と異なったので特異反応の内容分析によってその質的な違いを明確にする必要がある。また、妊娠3回目の妊娠を2つに分ける要因に関しての分析を行いたい。
- 2) 必ずしも、妊娠が回を経るに従ってそれに反応が対応するとは限らず、妊娠2回目が1・3回目とは異なった場合も少なくない。今回の分析では解釈が困難であるが他の要因が絡んでのことと予想されるので検討してみたい。
- 3) 今回妊娠回数によりSCK-PKS の回答にかなりの相違が認められたことから同一妊婦で回を経るに従ってどのように変化していくかを追跡的に探っていくことも検討しなければならない。

- 4) 今回取りあげた妊娠回数だけでなくそれ以外の妊娠期, 結婚年齢, 子どもの人数, 流産の有無, 年齢, 仕事の有無などとSCT-PKSとの関連を検討する必要がある。
- 5) われわれは現在本検査の男性版を作成し, 実施中であり, その一部は報告してきたが^{2) 5)}今後さらに妊婦版ともペア・マッチングして回答の異同の分析を行いたい。それによって夫婦間の妊娠や胎児にたいしての捉えかたの違いが明らかになることが期待される。
- 6) 心理臨床の視点から当然のことながら縦断的な母子・親子関係の形成発達研究が求められるがそのために新生児期用SCT (SCT-NKS), ならびに生後10か月用のSCT-IKSも作成し, 追跡調査を開始している。いずれこれらの縦断資料による分析検討を試みたい。
- 7) 先述したように反応間に相互に関連, または因果的連鎖(たとえば夫婦関係の良否が胎児や妊娠への態度に影響を与えるであろう)が存在しうと思われるので因果仮説を立ててパス解析などの因果分析の手法により再度の検討を行いたい。

附 記

1. 検査にご協力下さった妊婦の皆様, 並びに検査実施に多大なご協力を下さった都立母子保健院の関係各位に謝意を表したいと思います。
2. 本研究は厚生省の心身障害児研究「母子相互作用」研究班の研究費によるものである。
3. 本研究の資料の収集ならびに分析にご協力下さった東京大学母子保健学教室の小林臻先生, 飯島久美子氏に謝意を表します。

(昭和60年9月17日受理)

参 考 文 献

- 1) 川井 尚ほか 1982 妊娠期の母子関係～妊婦用文章完成法検査(SCT-PKS)の作成～乳児発達研究会発表論文集 第4号 Pp. 47-50
- 2) 庄司順一ほか 1983 妊娠初期の母子関係(2)～妊婦用文章完成法検査(SCT-PKS)の改訂と男性版の作成～乳児発達研究会発表論文集 第5号 Pp. 44-47
- 3) 周産期医学編集委員会編 1983 母子相互作用 周産期医学 臨時増刊号 13巻12号
- 4) 恒次欽也ほか 1984 妊娠期の母子関係(3)～妊婦用文章完成法検査の数量化第Ⅱ類・Ⅲ類による統計的分析～乳児発達研究会発表論文集 第6号 Pp. 18-26
- 5) 恒次欽也ほか 1985 妊娠期の母子関係(5)～SCT-PKS男性版の数量化第Ⅱ類・Ⅲ類による統計的分析～乳児発達研究会発表論文集 第7号 Pp. 7-14

附 録

<表紙>

SCT-PKS

(妊婦用)

ふりがな お 名 前	
住 所	
生 年 月 日	年 月 日
記 入 年 月 日	年 月 日 (年令 歳)
出 産 予 定 日	年 月 日 妊 娠 週

記入の仕方

このアンケートには、いろいろ書きかけの文章があります。それぞれのこ
とばを見て、頭に浮んだことを、そのことばに続けてかいて、文章を完成
させて下さい。

あまり考えこまずに、思いついたことをそのまま自由にかいて下さい。
すぐに思い浮かばないときには、その番号に○をつけて、あとでかいて下
さい。

なお、誰とも相談せずに、誰にも見せずに、あなた御自身のお気持ちをお書
き下さい。

[例]

公園 にはたくさんのお子どもが遊んでいます。

<最後の頁>

5. 御主人について

年令 _____ 才

学歴 (中学卒・高校卒・専門学校卒・短大卒・大学卒)

職業 (仕事の内容を詳しく) _____

御主人は _____ 人きょうだいの _____ 番目である

6. あなたの御両親・御きょうだいについて

私は _____ 人きょうだいの _____ 番目である

姉 _____ 名、 兄 _____ 名、 妹 _____ 名、 弟 _____ 名

父は _____ 才で、 職業は _____

母は _____ 才で、 職業は _____

(もしも御両親が お亡くなりになっている場合、それは
何才のときで、あなたはそのとき何才でしたか)

父親 _____ 才時、 そのとき私は _____ 才だった

母親 _____ 才時、 そのとき私は _____ 才だった

御協力ありがとうございました

発行 乳児発達研究会 (都立母子保健院内 TEL 420-7271)

著者 川井 尚・庄司 順一

1. 私は、子どもの頃 _____

2. 妊娠に気づいたとき、私は _____

3. 私は母と _____

4. おなかが大きくなってくると _____

5. 夫と私は _____

6. 出産 _____

7. 母に甘えたこと _____

8. もし私が男だったら _____

9. 私ときょうだいは _____

10. 赤ちゃんが生まれるときいて、夫は _____

11. 私は子どもと _____

12. 妊娠して、私のかわったことは _____

13. 子どもを育てることは _____

14. 私が泣きたくなるのは _____

15. 父は _____

16. 心配なことは _____

17. おなかの赤ちゃんが動くとき _____

18. 夫に対して私は _____

19. 私は女として _____

20. 父と母は _____

21. 私は将来 _____

22. 乳房 _____

23. 夫はおなかの赤ちゃんに対して _____

24. 困りはてたとき、私は _____

(次のページへおすすみください)

25. 私の子どもはきっと _____

26. 私は父と _____

27. 私が妊娠して、夫の変わったことは _____

28. 私のからだは _____

29. 父に甘えたこと _____

30. 私はおなかの赤ちゃんに対して _____

31. 仕事 _____

32. 母は _____

33. 性 _____

34. 子どもが泣きやまないと _____

35. 私は母親として _____

36. 夫と子どもは _____

37. 親友は _____

38. 夫の親と私は _____

以下の補足質問にもお答え下さい

1. 結婚年数 _____ 年 _____ カ月
2. 今回の妊娠について

妊娠は (初めてである
 _____ 回目である → 出産回数は今までに _____ 回
 流産の経験 (無 ・ 有)
 ↓
 自然流産 _____ 回 ・ 人工流産 _____ 回

3. 御家族について

同居しているのは、自分を入れて _____ 名

その内訳は …… 私 夫 _____

4. あなたの学歴・職業について

学歴 (中学卒 ・ 高校卒 ・ 専門学校卒 ・ 短大卒 ・ 大学卒)

現在の職業 (有 → 仕事 _____
 無 → 結婚なさったときは お仕事は _____
 (有 → 仕事の内容 _____
 無 _____

(次のページへおすすみ下さい)